城南旋風 早くも期待

センバツ出場決定

創部113年「感無量」

選手やOBら喜び爆発

選抜高校野球大会出場が決まり、保護者から祝福を受ける城南高ナイン＝徳島市の同校グラウンド（森丘幹也撮影）

城南高校（徳島市城南町2）の第83回選抜高校野球大会出場が決まった28日、吉報を待ちわびた選手や保護者、卒業生は創部113年にして初の快挙に喜びを爆発させた。県内の高校野球部で最古参ながら、甲子園に縁がなかった同校。「感無量だ」「甲子園でも城南旋風を」。早くも期待は大きく膨らんだ。

出場決定を伝える校長室の電話が鳴ったのは午後3時3分。一息置いて受話器を取った岡田哲校長が「謹んでお受けいたします。ありがとうございました」と答えると、待機していた学校関係者や保護者から割れんばかりの拍手が起きた。

グラウンドで岡田校長から出場決定の知らせを受けた選手は、帽子を高々と放り投げて喜びを表現。保護者から「よかったね」「おめでとう」との声を掛けられると、照れたような笑顔も見せた。

竹内勇太投手の父で、野球部保護者会長の同市八万町上福万、会社員竹内啓二さん(47)は「お世話になった人への感謝の気持ちを忘れず、伸び伸びとプレーしてほしい。後援会は出場決定を受け野球部OB会長の同市大松町上西奥、会社経営雑賀一彦さん(49)も「私の高校時代には考えられなかったこと。ついにこの時が来たという感じ」と声を弾ませた。

同校ではこの日、卒業生を控えた3年生を送る予餞会を同市文化センターで開き、野球部員以外の生徒と教職員約950人が出席していた。会終了後、突然スクリーンに「祝！野球部　21世紀枠決定」の文字が映し出されると、生徒から大歓声が上がった。

野球部主将を務めていた3年畠永幹也君(18)は「歴史を変えてくれた」と興奮気味。吹奏楽部長の2年篠原千恵さん(16)は「甲子園で演奏できるなんて夢のよう。しっかり練習して選手をもり立てたい」と笑顔で語った。

旧制徳島中学校を前身とし、創立136年の歴史を誇る同校。同窓会や関係者は出場決定を受け城南高校甲子園出場特別後援会を急きょ同日付で結成し、支援態勢が整った。

（河野隆雪、伊藤典文）

本社が電子速報

徳島新聞社は28日、城南高校が第83回選抜高校野球大会に21世紀枠で出場が決まったことを報じる張り出し速報を徳島駅前に掲示した。また、駅前や同校周辺で電子速報を800枚を配った。

張り出し速報は「城南初の甲子園の見出しで、城南ナインが飛び上がって喜ぶ写真と出場子想メンバーを掲載。1898年創部という県内の最も歴史ある野球部が、春夏の夏野優香さ「晴れ舞台でを通じ、初めて甲子園の士を踏むことや、秋季県大会、四国大会での健闘ぶりがつづられている。電子速報を受け取った美波町出身しまったら。県代表とい。県代表とほしい」と工持ち、楽しん

城南高校の甲子園初出場を伝える張り報＝徳島駅前